記者発表資料

平成20年12月16日
秋田河川国道事務所

～日沿道開通から1年の効果～
交通事故件数・死傷者数が3～4割減少

平成19年9月17日に開通した日本海沿岸東北自動車道（本荘－岩城）及び仁賀保本荘道路の開通効果についてお知らせします。

■国道7号※の交通事故件数・死傷者数が3～4割減少

○**交通事故件数は42%の減少**（年間92件から53件へ）
○**死傷者数は33%の減少**（年間118人から79人へ）
※対象路線には供用区間（日沿道・仁賀保本荘道路）も含む

■路線バスの運行遅延が約6割減少

○**10分以上の遅れ便数は56%減少**（年間931便から405便へ）
○特に**20分以上の大幅な遅れ便数は70%減少**（年間259便から77便へ）
○定時性の向上により、**バス事業者の人件費が約80万円／年削減と試算**
○バス利用者から「待ち時間が少なくなり時間も読める様になったので助かった」等の声あり

【参考資料】

◆開通1年の交通状況
○交通量は概ね約9，000台～10，000台で推移
○開通区間に並行する国道7号の交通量は約3割～5割減
○開通区間と並行する国道7号の日沿道合流部（にかほ市両前寺）～水林交差点間で、混んでいる朝の時間帯（7時台）の走行速度が16km～22km向上

◆救急救命活動への支援　～岩城地域の重篤患者への対応～
○日沿道の整備、及び岩城分署への高規格救急隊の配備により重篤患者の搬送時間が開通前に比べ約20分短縮
○救急救命士の声「現場到着が早くなったことにより、患者の症状確認、病院への連絡、専門医の確保などが迅速化している」

◆円滑な物流への支援　～人件費削減やドライバーの負担軽減に寄与～
○県内随一の製造品出荷額を誇るTDK関連物流では、走行性の向上から帰社時間が45分短縮、ドライバーの人件費が年間約110万円削減（物流会社の一例）
○ドライバーの疲労面や交通安全面での負担軽減、及び精密機械の振動抑制など、走行時のストレスが軽減

《記者発表先：秋田県政記者会》

【問い合わせ先】
国土交通省　東北地方整備局　秋田河川国道事務所
電話：018－823－4167（代表）
副所長（道路担当）　佐藤（さとう）　寿昭（としあき）
調査第二課長　大友（おおとも）　武彦（たけひこ）

日沿道・仁賀保本荘道路
（平成19年9月17日開通）開通から1年が経過して

①交通事故・死傷者数が3～4割減少
②公共交通の運行遅延が約6割減少



【開通前の国道7号】



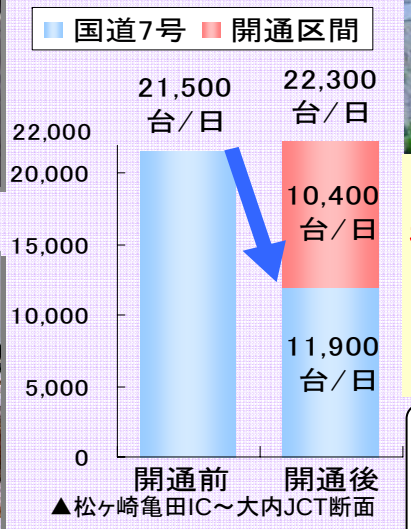
▲交通事故の発生状況
(由利本荘市松ヶ崎付近)



▲冬期の渋滞状況(由利本荘市西目町)

【交通量の変化】

国道7号の交通量が
約45%減少！



▲松ヶ崎亀田IC～大内JCT断面

※開通前：H17道路交通センサス
開通後：H20.09.25観測

【開通した日沿道】



○交通事故件数・死傷者数とも3～4割減

[事故件数]	整備前　92件/年	整備後　53件/年
[死傷者数]	整備前　118人/年	整備後　79人/年

○路線バスの運行遅延（10分以上）が約6割減少

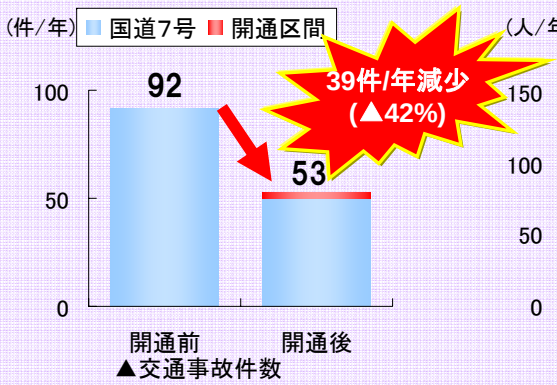
整備前　931便/年 → 整備後　405便/年

※走行速度が16～22km向上（日沿道合流部（にかほ市両前寺）～水林交差点間）

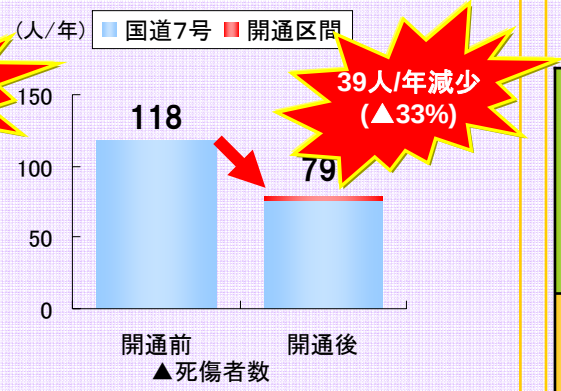
・工事期間：【日沿道】H12～19年度 【仁賀保本荘道路】H14年度～（事業中）
・総事業費：【日沿道】約760億円 【仁賀保本荘道路】約360億円（供用区間）
・延　　長：【日沿道】21.6km 【仁賀保本荘道路】11.2km（供用区間）
・幅　　員：12.0m【自動車専用道路】

①日沿道・仁賀保本荘道路の整備により、交通事故・死傷者数が減少

○交通事故は42%、死傷者数は33%の減少

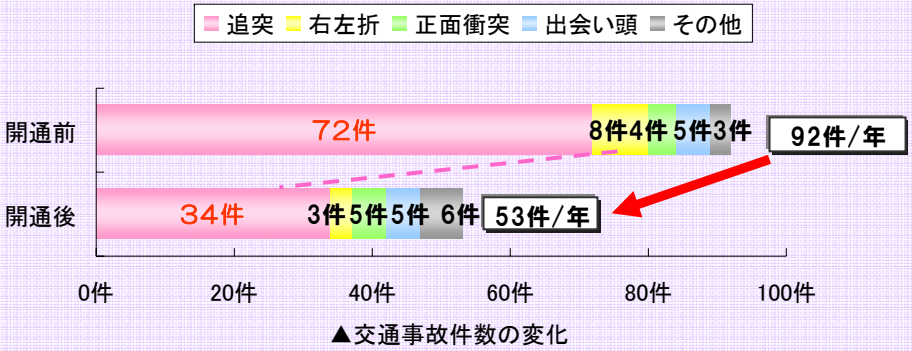


▲交通事故件数



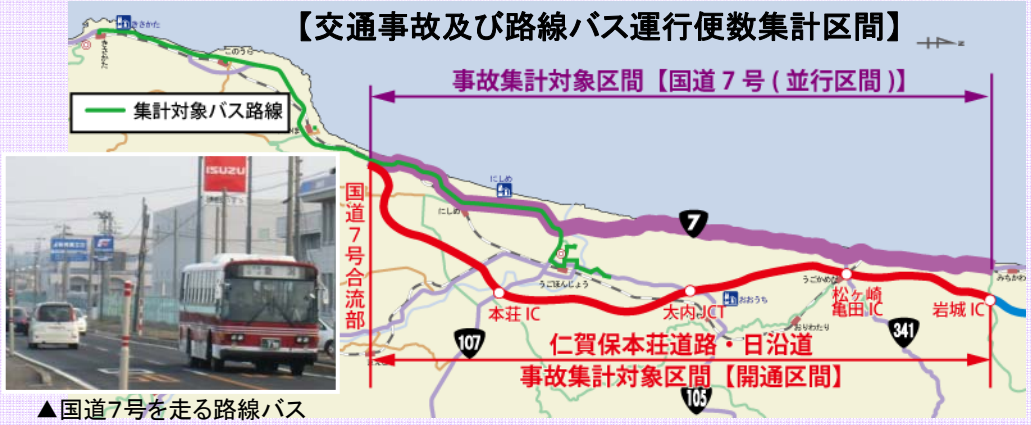
▲死傷者数

○主な事故要因であった追突事故が半減！(72件→34件)



▲交通事故件数の変化

※秋田県事故データを基に各1年間を集計
開通前：平成18年9月17日～平成19年9月16日　開通後：平成19年9月17日～平成20年9月16日

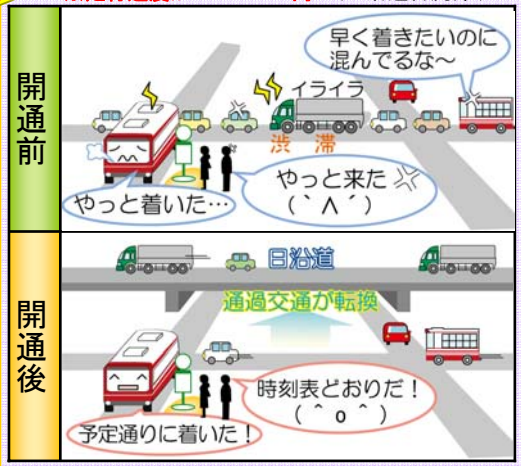


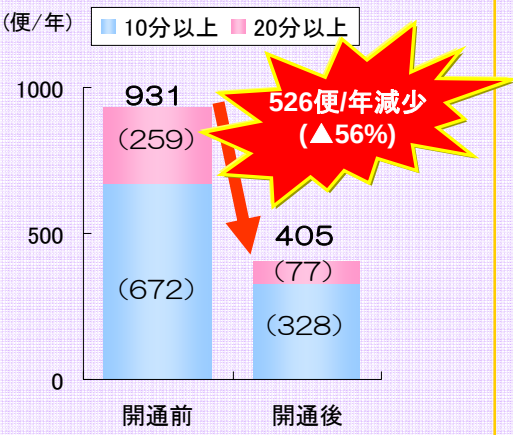
▲国道7号を走る路線バス

②開通区間への交通転換により、路線バスの定時性が向上

○交通が日沿道へ転換し、国道7号を走る路線バスの運行遅延(10分以上)が56%減少（20分以上の大幅な遅延は70%減少）

※走行速度が16～22km向上（日沿道合流部（にかほ市両前寺）～水林交差点間）



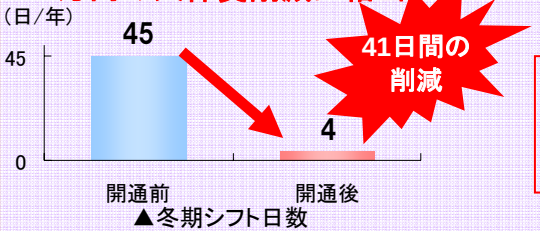


▲遅れ時間10分以上のバス運行便数

※バス事業者運行記録より集計(但し、運行遅延には交通混雑だけではなく事故や天候等の要因を含む)
（集計期間）
開通前：平成18年9月17日～平成19年9月16日　開通後：平成19年9月17日～平成20年9月16日

③冬期バス事業における人的・経済的負担が軽減

○冬期はダイヤの乱れから運転士2名/日を増員するシフトで運行していたものの、開通により冬期シフトが年間45日⇒4日に激減(年間約80万円の人件費削減に相当)



▲冬期シフト日数

冬期シフトの削減日数から
人件費が約80万円／年削減
したと試算

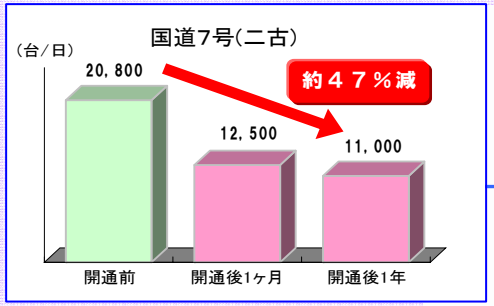
※バス事業者ヒアリングより
開通前：平成18年12月～平成19年2月、開通後：平成19年12月～平成20年2月

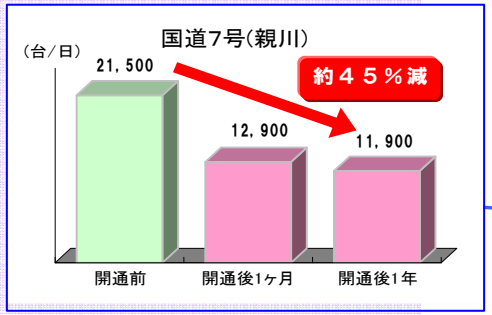
④バス利用者の声

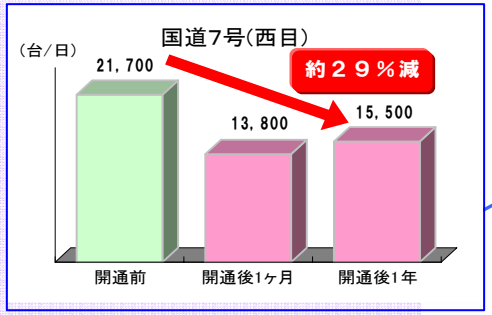
○国道7号の車、特にトラックが減ったため、バスでの移動時間が以前に比べて早くなった様に思う。
○冬期でもバスの遅れが目立たなくなったので、待ち時間が少なくなり時間も読める様になったので助かった。

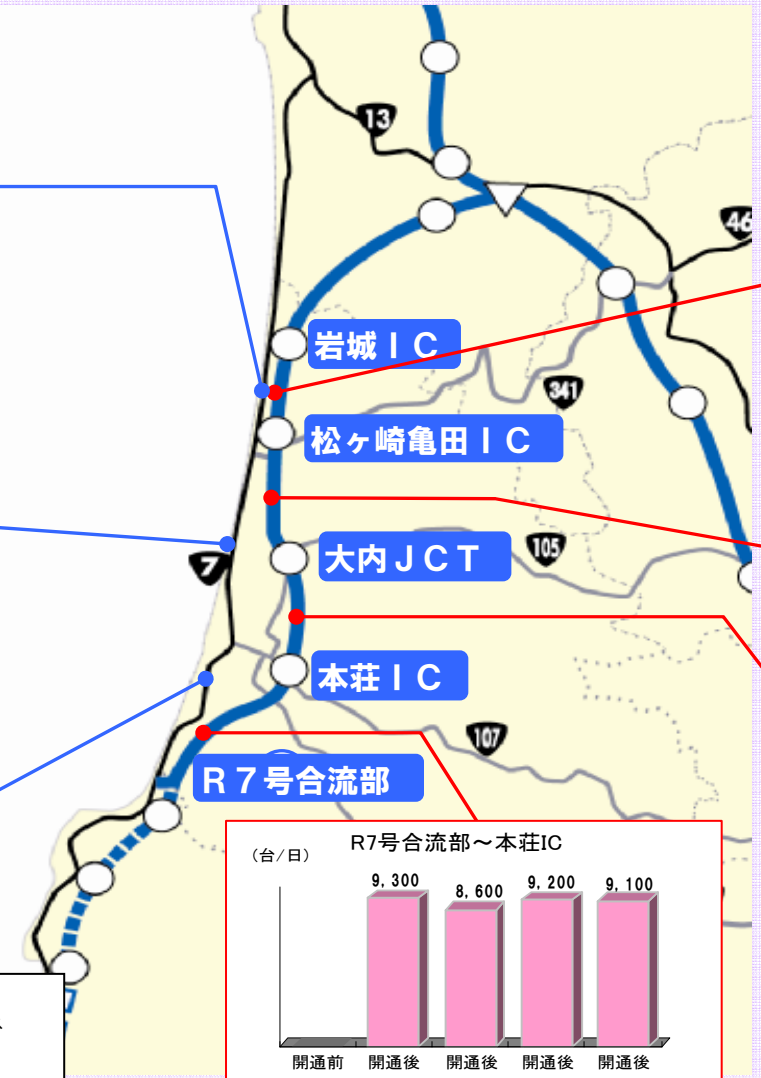
参　考　資　料（日沿道開通1年の交通状況）

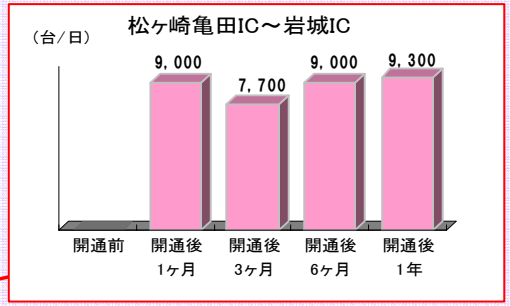
○日沿道の交通量は開通後6ヶ月以降、概ね約9，000～10，000台/日で推移
○開通区間に並行する国道7号の交通量は約30～50%減

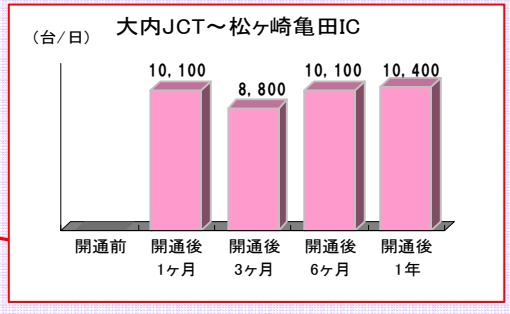


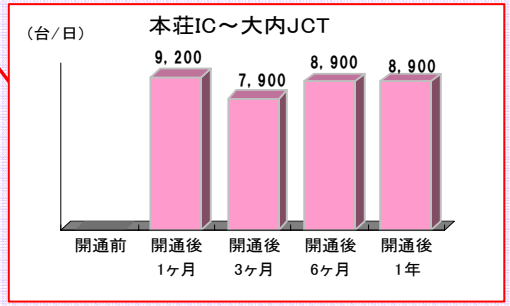












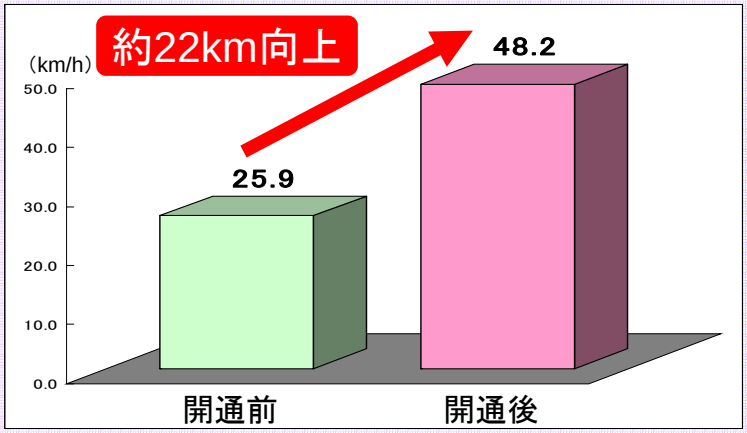
■交通量観測データ

交通量調査
開　通　前：H17道路交通センサス
開通後1ヶ月：H19年10月17日
開通後3ヶ月：H19年12月18日
開通後6ヶ月：H20年　3月18日
開通後１年：H20年　9月25日
※100台単位で表記

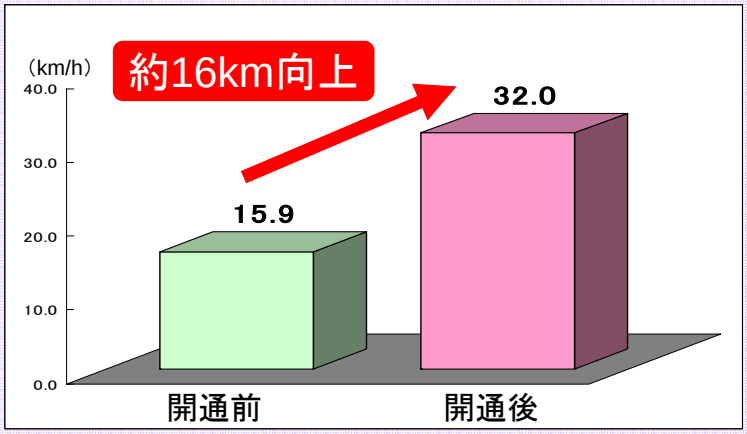
参　考　資　料（日沿道開通1年の交通状況）

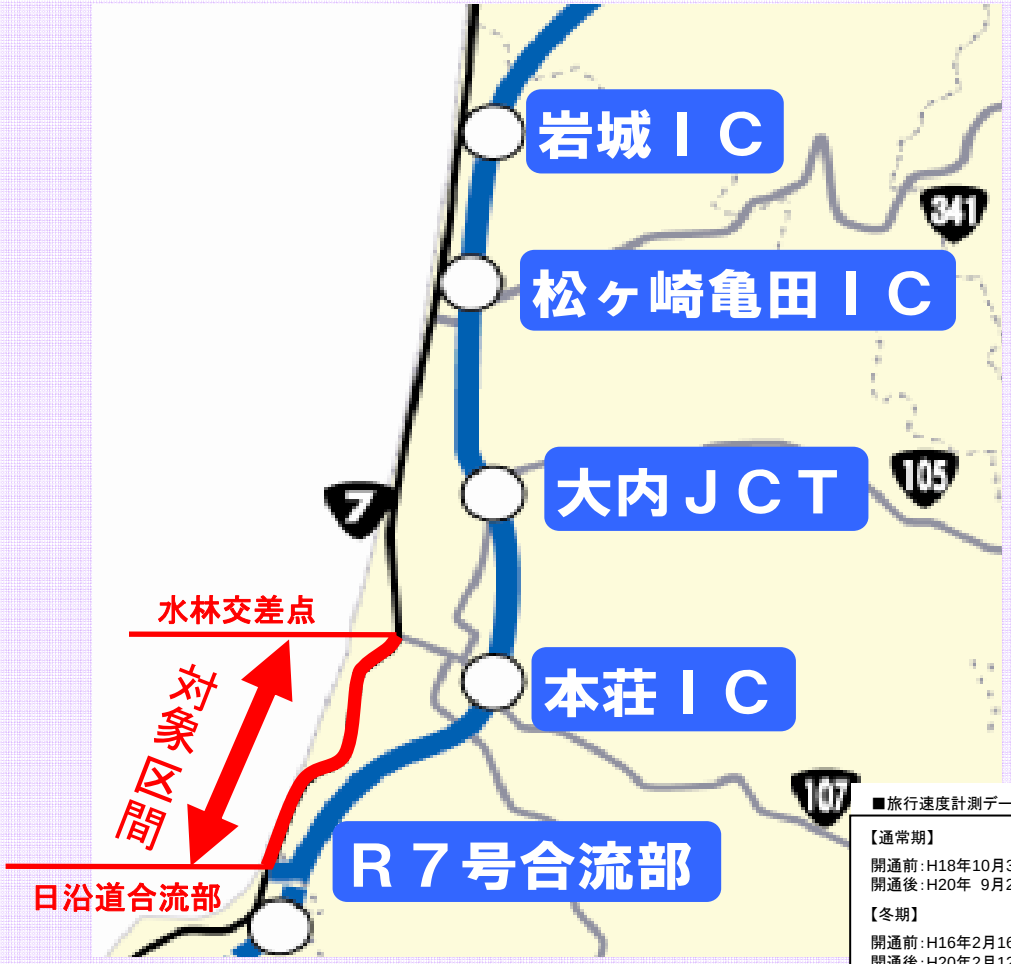
○開通区間と並行する国道7号の日沿道合流部（にかほ市両前寺）～水林交差点間で、混んでいる朝の時間帯（7時台）の**走行速度が16km～22km向上**

【通常期】



【冬　期】





■旅行速度計測データ

【通常期】
開通前：H18年10月3日
開通後：H20年　9月25日

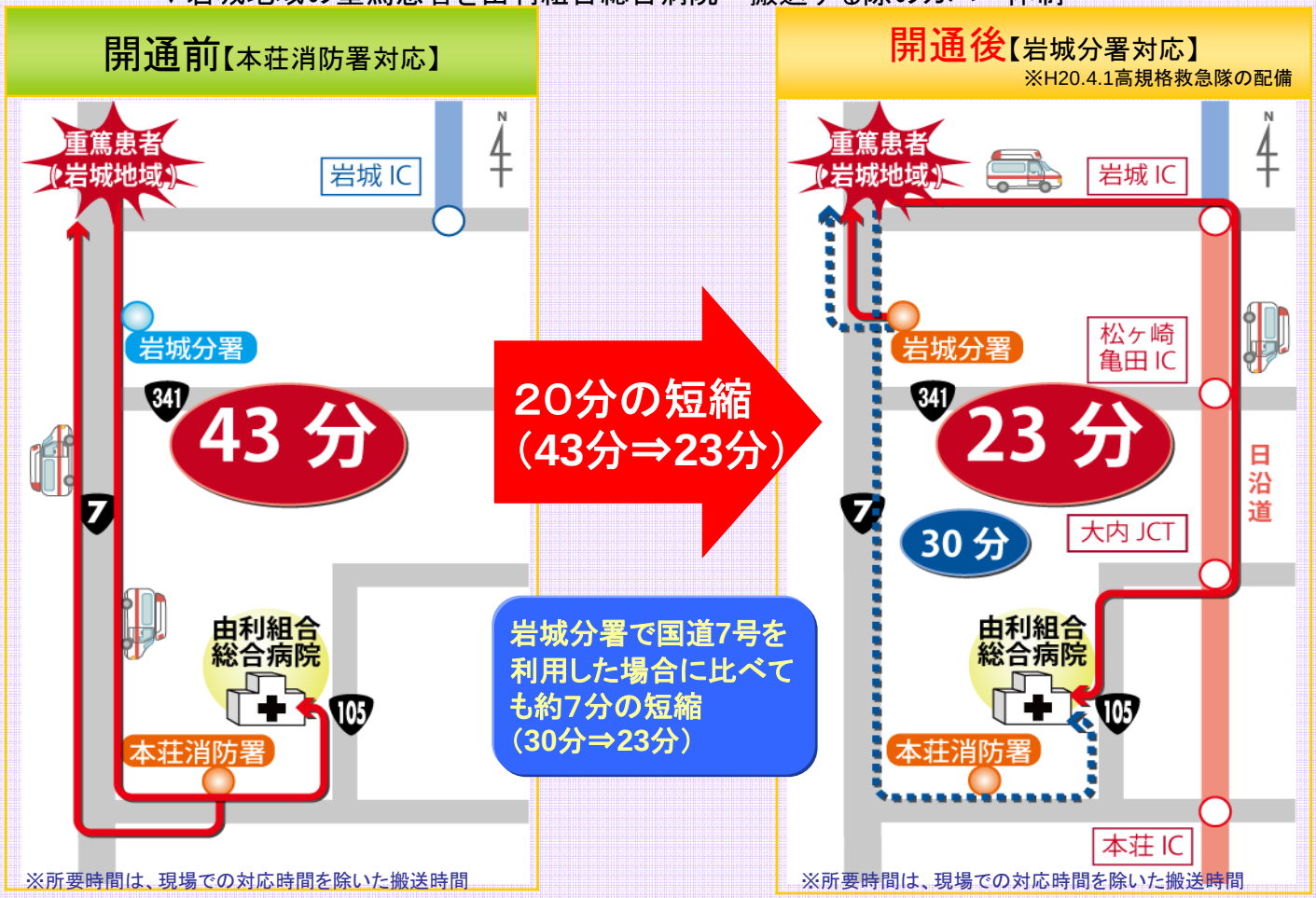
【冬期】
開通前：H16年2月16日、18日、23日の平均
開通後：H20年2月12日
※7時台(上り方向)を図示

参　考　資　料　（救急救命活動の支援）

○日沿道の整備により、岩城地域の重篤患者のスムーズな救急搬送に寄与

- 消防本部の救急業務高度化（平成20年4月に岩城分署に高規格救急隊を配備）もあり、**搬送時間が２０分短縮**　⇒　1分1秒を争う救急救命活動の支援に大きく寄与
- 日沿道利用による安定した走行により**搬送患者の負担が軽減**
- 搬送経路の選択性が増加し、救急隊の連携も可能に

▼岩城地域の重篤患者を由利組合総合病院へ搬送する際のカバー体制



※高規格救急隊：救急救命士が乗車し、救急車内の資機材が特定行為等に対応した車両



▲松ヶ崎亀田IC付近を走行中の救急車

岩城分署の救急救命士の声

- 勾配やS字カーブ等がなく、走行性が高いので、搬送患者の負担が軽減している。
- 現場到着時間が早くなったことにより、患者の症状確認、病院への連絡、専門医の確保などが迅速化している。
- 搬送患者の重症度※が高ければ高いほど、道路整備による時間短縮効果は大きい。

※患者の生命予後又は機能予後を示す概念であり、患者の症状によりその判断基準が異なる

出典：由利本荘市消防本部ヒアリング

参　考　資　料（円滑な物流への支援）

○日沿道整備により県内随一の製造品出荷額を誇るTDK関連物流の経費削減・走行性向上に寄与

・日常的な物資の搬出入のうち、「羽城便」「イワキ便」では、**帰社時間が45分短縮**することにより、**ドライバーの人件費が年間約110万円削減**（物流会社の一例）

・ドライバーの疲労面や交通安全面での負担軽減、及び精密機械の振動抑制など、**走行時のストレスも軽減**



▲日沿道開通区間を利用する日常的なTDK関連物流

年間約１１０万円の経済効果(ドライバー人件費)

●45分の時間短縮(2ルート分)から人件費を試算すると

・2,000円/時 × 45分/60分 × 365日 × 2ルート≒ 110万円 に相当

※時給=2,000円、年間稼働日数=365日として試算

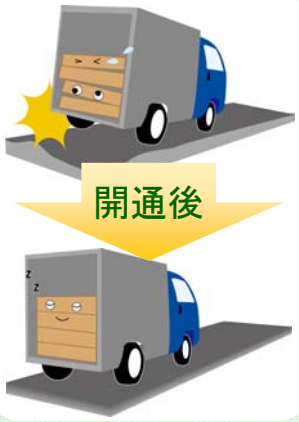
ドライバーの声

●ドライバーのストレス軽減

・信号による停止・発進を繰り返す事が無く、高い走行性を維持することが可能となった。

・自動車専用道路であるため歩行者等へ配慮する必要が無く、交通事故の危険性が低下した。

・精密機械は振動に弱いため走行時には気を使っていたが、日沿道の路面状態は良く、走行時の快適性が向上した。



精密機器の例



▲コンデンサ



▲センサ

※携帯電話やPC・TVなど様々な機器に活用

出典：(株)アルプス物流　秋田営業所ヒアリング